

## 仙台大学通信教育指導室メールマガジン 第81号

通信教育指導室から、こんにちは。

皆さんは、NHK スペシャル「涙と笑いのハッピークラス」という番組を知っていますか。2002年4月からの金森学級の1年間を記録したこの番組（YouTubeで視聴可）は、世界中で大きな感動を呼びました。

学級担任の金森俊朗先生は、石川県の小学校教師として活躍、退職後は北陸学院大学教授として後進の指導に当たりました。

金森実践の核となっている「手紙ノート」から、小5のアユミさんの詩を紹介します。



金森俊朗先生  
(1946 - 2020)

### べんきょうのことで悲しみをもったこと

私は、とっても、べんきょうができない。  
なぜかと言うと、先生の話をちゃんと聞いて  
いるけど、どうしても、わすれてしまう。  
おぼえていたとしても、ちょっとしか、お  
ぼえていない。

いつもいつも私は、バカだと思ってしまう。  
勉強だけだったら、ちょっとはいいと思っ  
たけど、運動もできない。とび箱だって、ち  
よっとしかできない。

でも、それだけだったらまだよかったかも  
しれない。

私は、ピアノと、そろばんを、やっている。  
ピアノの先生は、とってもやさしい先生な  
ので、ごうかくをしたら、お母さんが、

「ごうかくしたかい？」と  
聞いてきた。

私が「うん」と言ったら、  
「うそやー、あの先生あま  
いもん！あんなにへたくそ  
やってんにー。」

と言った。

私は何もいれなかった。



そろばんのときだって5きゅうのしげんに  
2かいもおちてしまった。

そしてお母さんに

「あんただお金つかつとるようなもんや  
がいね！はよううかりまっし！まさよし  
（おとうと）にぬかされるぞー。」

と言われた。私は、少しないてしまった。  
勉強も、運動も、ならいごともなんのとり  
えのない私がだんだんなさけなくなった。  
勉強は、もうなにもかもやめたいと思うよ  
うになった。ならいごとだってやめたい！  
と思った。

その日から、私はとーってもバカだ、と思  
ってしまった。

お父さんが、いとこの、のりちゃんのこと  
を話していて、お父さんが、

「のりこ、あたまいーなー」

と言って、私の方を見てきた。

「どうせ私はあたまがわるいよー」

と言った。だって、ほんとうに、のりちゃん  
はとっても頭がよくて、うんどうがすごく

できて、そろばんだって1きゅううかった、  
字もうまいし…。

そしてお母さんが、

「おんなじいとこどうしなのに、どうして  
こんなにちがうのかな？」

と言った。

私は、おとうさんより、おじいちゃんの方  
があたまがよかったからじゃない！と思っ  
た。

そして、

「そんなに子どもがあたまよかったらいい  
なあと思うんなら、のりちゃんを子どもに  
すればいいじゃない！」と思った。

それに、私は思った。

「どりょくをしても、あたまがよくならな  
いんだよ！しょうがないバカなん  
だよ」と思った。

でも、私は、どうしても、頭がよく  
なりたいな—と思う。

そして、さんすうの時間になった  
り、こくごの時間になったりする

と、わかっているんだけど、どうしても、手  
が上げられない！じしんがないからだ。

先生が、

「かっこうつけなくてもよい」

と言うけれど、やっぱりじしんがない。

そして、どうしても、わからない！

私は、こういう自分がにくくなってきた。

そして、のりちゃんは、あたまがいい。

私は、

「どうしてのりちゃんあたまがいいの？」  
と言った。

うらやましかった。私もあたまがよくなり  
たい。

それをきいてたお母さんが、

「のりちゃんはどりょくしてるから……」  
と言った。

その中に「ゆるせない」ことばがあった。そ  
れは、

「あんたみたいに、どりょくをしない子じ  
ゃないの！」

私は、いくらお母さんでも、ゆるせなかつ  
た。私は、夕食をたべているときも、そのこ  
とばがあたまの中に、ぐるぐるうかんだ。

そして、目の中になみだをいれたままごは  
んをたべていた。

そして、ごはんをたべおわったらなき  
そうな声で「ごちそうさま」と言った。  
そのまま自分のへやにいて、一人で  
めいっぱい泣いた。

私はなきながら、小さなこえで、

「私だってどりょくしているよ！なにもし  
らないくせに！どりょくしてるけどわすれ  
てしまうんだよ！」

と言っていた。

私は、なにも私のきもちをしらないのに、  
かってにきめられたのが、とってもいやだ  
った。こんどから、かってにきめないでほ  
しいと思った。

(5年 アユミ)



『子どもの力は学び合ってこそ育つ』金森俊朗(角川 one テーマ 21 2007) p.153 一部編集

自信をなくし、押しつぶされそうになりながら、それでも頑張ろうとするアユミさんの心の叫びが、痛いほど伝わってきます。金森学級には、それを受けとめ、「自分にも似た経験がある」と共感してくれる仲間がいます。共感と共有—大人の世界でも大切ですね。